常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅢ
令和　４年　９月 16 日(金)
その２　通算 258 号

◇ 瞳 輝く時 ❷　　hitomi kagayakutoki Ⅱ

その１【瞳 輝く時 ❶】の続き…

外国語活動の TI(ティー・ワン)は ST(サポート・ティーチャー)の K 先生。
K 先生の子供の導きの巧みさは 257 号その１で紹介したとおり。
子供たちの瞳が輝きを導いた最大の功労者であるのは、言うまでもない。

そしてもう一人、隠れた功労者は担任の I 教諭だ。
２人の方向の異なる子供へのアプローチがあってこその「瞳 輝く」なのである。

１年生担任：I 教諭の週案を一部抜粋。

＜生活科の虫探し＞

『ダンゴムシしか飼ったことがないから、虫探しは楽しみ』と、Ａさんは虫探しを心待ちにしていた。
（中略）……
　バッタなどの虫を平気で触れるＢさん。Ｂさんから刺激を受け、苦手な虫に触ろうと何度も試みるＣさんとＤさん。（中略）……
　Ｅさんはカエルに興味津々で住み家づくりに勤しむ。でも、うまく作れず苦労している様子を３年生のＸさん気付き、カエルの住み家づくりを手伝ってくれた。そして、虫が触れなかったＦさんであったが、バッタの足をつかんで虫かごに入れる努力が見えた。これも放課に４年生のＹさんが一緒にバッタを捕まえてくれたことなどの支えや協力が大きい。いろいろな学年の子たちからの１年生への関わりがあって、１年生の成長がある。
（中略）……
　２学期最初の外国語活動の授業があった。もともと子供たちが楽しみにしている授業ではあったが、今回は生活科の「虫探し」に合わせ、ＳＴ（サポート・ティーチャー）のＫ先生に「虫」を題材にした授業をしていただいた。……（後略）

Ｉ教諭の週案に目を通して思ったのは、

生活科の授業「虫探し」で虫に触れる直前の体験がなければ、「かごの中の虫」への子供の食いつき・興味は、さほど大きくなかったかもしれない。
鋭く、素早かった子供たちの反応もあれほどではなかったかもしれない。
張りのある声ももう少し鈍かったかもしれないということだ。

確かに、かごの中の虫「バッタ」が登場した時の子供たちの反応は素早かった。
虫への関心が高まっていたＡさん。虫が大好きなＢさん。虫が苦手でも、何とかバッタに触ろうとしたＣさんやＤさん。バッタに触ることができるようになったＥさん。それぞれ立場は異なれど、バッタに触れたそれぞれの体験が反応を加速させたのではないだろうか。

バッタが登場した場面でもう一つ紹介したいことがある。
Ｋ先生から子供たちへの体験を想起させる問いかけである。

「ロッカーの上のみんなの虫かごの中にも、バッタがたくさんいるよね。
みんなの捕まえたバッタは glasshopper（グラスホッパー）。
バッタは草の上をバッタはぴょんぴょん跳ぶでしょ。
glass は草。hopper は、ホップ・ステップ・ジャンプのホップだね。」

授業を観ながら自分はというと、
「草の上をホップね。なるほど。だから glasshopper か。」と納得していたが、大事なのはここではなかった。
Ｉ教諭の週案を読んだからこそ分かる大事な部分。

「ロッカーの上のみんなの虫かごの中にも、バッタがたくさんいるよね。」
みんなの捕まえたバッタは…」👈ここまでが宝箱の鍵である。

担任のＩ教諭との打合せがあったから、子供たちの体験を想起させるためのＫ先生の問いかけが生まれたと言えよう。ナイス協調！

二人の先生の協力により、さりげない演出と技で子供たちをやる気にさせ、子供たちの瞳を輝かせた見事な外国語活動の授業であった。

担任のＩ教諭。外国語活動の授業中、始終にこにこであった理由が理解できた。